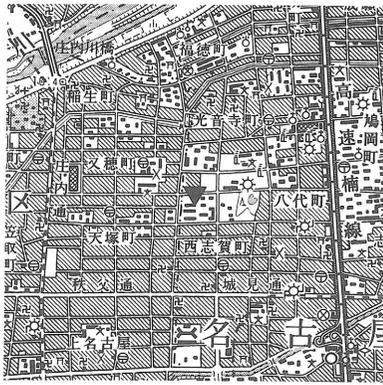


愛知・平手町遺跡  
ひらてちよう



(名古屋北部)

- 1 所在地 愛知県名古屋市北区平手町一丁目
- 2 調査期間 第四次調査 二〇〇七年(平19)五月〜二月
- 3 発掘機関 名古屋市教育委員会・国際航業(株)
- 4 調査担当者 桐山秀穂・東園千輝男・石田和哉・野澤則幸
- 5 遺跡の種類 集落跡・墓地
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期〜江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平手町遺跡は、庄内川左岸の自然堤防上に立地する。下層面では弥生時代中期〜古墳時代、上層面では中世の時期が中心となる。上

層面では区画溝や道路、井戸、柱穴などの居館状の遺構群を検出している。

木簡は、上層面の土坑SK〇八〇より、瀬戸美濃製の陶器などとともに一点出土した。木簡が埋められた年代は、瀬戸美濃製品品の年代から、大窯第一段階(一

五世紀末頃)と推測される。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「<sup>(ホロ)</sup>寺(符録)(九字)川布  
□右」  
[輔カ]

114×24×2 051

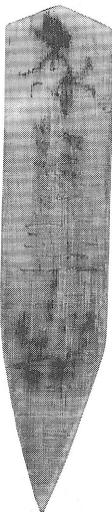
割書は、変体仮名で「つふう」と判読できようか。とすれば、古来「歴節風」と呼ばれ、室町時代から「痛風」と俗称された病をさし、本木簡は疾病除けのための呪符木簡である可能性が考えられる。

木簡の釈読にあたっては、小林吉光氏及び名古屋市博物館の方々のご教示を得た。

9 関係文献

名古屋市健康福祉局『平手町遺跡第四次発掘調査報告書』(二〇〇八年)

(桐山秀穂・石田和哉・野澤則幸)



赤外